

簿記・会計入門科目の成績に影響を及ぼす 要因に関するサーベイ調査¹

A Survey Study on Factors Affecting Academic Performance in Introductory Accounting Courses

高橋 円香
中島 真澄

〈論文要旨〉

日本における会計専攻学生数が高い水準を維持しているとはいいがたい。初年次における簿記・会計科目が、学生の興味を惹いていない可能性があるため、学生の会計に対する姿勢を明確にし、会計学への興味関心を増やす方法を見つける必要がある。そこで、本研究では、財務会計、会計学、上級簿記の履修者を対象に、簿記・会計入門科目の成績の決定要因として、動機づけ、努力、適性の因子を比較した。まず、学生の属性や学生の学修環境を調査し、簿記・会計入門科目の成績が動機づけ、努力、適性の要因と相関しているかどうかを分析した。

研究の結果、第1に、財務会計、会計学、上級簿記の履修者は、会計に対して肯定的な姿勢を有しているものの、会計専門職を自分のキャリアとして考えていないことが明らかになった。第2に、簿記・会計入門科目の成績と大学全体の成績との間には有意な正の相関関係があり、簿記・会計入門科目の成績と英語プレイスメントテストの点数との間には有意な相関関係はないことが明らかとなった。第3に、簿記・会計入門科目の成績と課外活動の時間との間には有意な正の相関があるが、アルバイトの時間との間に相関はないことが明らかとなった。

〈キーワード〉

簿記・会計教育、会計入門科目、動機づけ、努力、適性

¹ 本稿は、日本会計研究学会第79回大会自由論題報告(2020年9月5日、北海道大学・北星学園大学)を基礎としている。本研究は、2019年度文京学院大学学長裁量経費研究として採択され、当該研究費の助成を受けた成果の一部である。

1. はじめに

国内における公認会計士試験の合格者数は2019年には1,337名と2015年の1,051名に比べ増加しているが、2010年の合格者数2,041名と比較すると約半数である（MyNavi 2010）。一方、米国公認会計士協会（American Institute of Certified Public Accountants: AICPA）（2020）によると、学士学位取得者数と会計修士学位取得数は、2000年から2013年にかけては増加しているが、2015年以降は学士学位取得者数と修士学位取得者数の両方とも減少している。当該結果から、日米ともに、会計専攻者の数が高い水準を維持しているとはいいがたい。これは、初年次における簿記・会計科目が、学生の興味を惹いていない可能性があるため、日本の会計専攻者数を増やすためには、学生の会計に対する姿勢を明確にし、会計学への興味関心を高める方法を見つける必要がある。そこで、本研究では、2年次生から4年次生を対象とし、1年次に設定されている簿記・会計入門科目に対する学生の姿勢に関してサーベイ調査を実施した。

サーベイ調査に基づく研究は、回答者に直接質問することで、公開情報では得られない新たな指標や考え方を得ることができるため、仮説を検証するための有効な分析手法である（Graham et al. 2005; 須田・花枝2008）。したがって、本研究における学生の会計に対する意識調査は、成績や専攻の選択だけではわからない学生の真の考えを明らかにするための有効な方法といえる。しかしながら、サーベイの質問が回答者に正しく理解されないことや、回答者が自分の真の考えを示さないなどサーベイ調査には潜在的な限界もある。

本稿では、サーベイ調査に基づき、「財務会計」、「会計学」、「上級簿記」を履修する学生を対象に、簿記・会計に対する意識や学修環境を尋ねた。その結果、簿記・会計入門科目の学業成績は、大学全体の学業成績、会計に対する姿勢、学校での課外活動時間との間に相関関係があることが明らかになった。これは、会計に対する積極的な姿勢を有する学生が、簿記・会計入門科目でより良い学業成績を示すことを示唆している。

今回の調査は、以下の点に特徴がある。第1に、「財務会計」、「会計学」、「上級簿記」の3科目のいずれかを履修する学生を対象に、質問を送り直接回答してもらう形式で、会計に対する意識を調査した。第2に、サーベイ調査の内容を学生の会計に対する意識から学修環境までとした。第3に、当該3科目を履修する学生に対して同じ質問票を用いて回答を比較した。このような比較結果は、会計専門職をどのように育成するかという議論において重要な示唆を与えるものである。

本研究の構成は以下のとおりである。第2章では、先行研究を概観する。第3章では、サーベイ調査の内容を説明する。第4章では、学生の会計に対する意識について、当該3科目を履修する学生の回答の調査結果を比較することで簿記会計の学修に対する動機づけを明らかにする。第5章では、努力因子として学修環境に関する調査結果を示す。第6章では、適性因子としての入学前における会計教育に関する調査結果を示す。第7章では、学業成績と動機づけ、努力、適性との相関関係から得られた結果を示す。第8章では結論を述べる。

2. 先行研究レビュー

英語圏における簿記・会計入門科目の学業成績と、適性や意欲などの要因との関連性についての研究は多いが、日本における研究ではそれほど蓄積されていない。Solomon (1975) は、簿記・会計入門科目履修学生の会計学に対する一般的な姿勢が、事例研究をに組み込んだ後に改善されることを明らかにしている。Geiger (1990) は、会計に対する姿勢が簿記・会計入門科目の学業成績と正の関連性があることを示している。Wicker et al. (2014) は、学修結果に対する期待とその目標がパフォーマンスに及ぼす有益な効果を裏付けることができることを発見した。

会計教育に関する先行研究では、大学入学前における会計の修学経験が簿記・会計入門科目の学業成績に影響を与えるかどうかに関心を合わせている。Eskew and Faley (1988) は、適性変数であるSAT (Scholastic Aptitude Test) スコア、過去および直近の学業成績、努力や動機づけ変数である課題の数、および入学前の会計の修学経験が簿記・会計入門科目の成績に有意に関連していることを示している。Barhamzaid and Alleyne (2018) は、GPA (Grade Point Average) と高校の成績が簿記・会計入門科目の学業成績に大きな影響を与えていることを発見している。Doran et al. (1991) は、学術的適性と成績が簿記・会計入門科目における試験得点の重要な要因であることを示唆している。Wooten (1998) は、適性と努力が成績に影響を与え、過去の成績、動機づけ、仕事、課外活動、および家庭環境が努力に影響を与えることを示している。さらに、Wooten (1998) は、学生の努力が過去の成績および現在の成績と関連性を有し、より高いGPAを有する学生が簿記・会計入門科目でより多くの努力をすることができることを発見している。Weinstein (1999) は、GPAと適性が簿記・会計入門科目の成績を説明するための重要な因子であることを発見している。

Jones and Wright (2011) は、学生のGPAと簿記・会計入門科目での成績に正の関連があることを示している。Kalbers et al. (2018) は、GPAと高校の成績が簿記・会計入門科目の学業成績に大きな影響を与えることを示している。Dockweiler and Willis (1984) は、入学時のGPAが学業成績の最も重要な予測因子であることを示している。Kukreja and Aali (2013) は、バーレーン王国の大学生286名を対象に調査を実施し、性別、専攻、高校の成績、GPAが簿記・会計入門科目の成績の指標となることを示している。Ibrahim (1989) は、学生の期待される成績と全体のGPAが、実際の成績と有意に関連していることを明らかにしている。

Bekoe et al. (2019) は、大学入学前に会計教育を受けた学生は、会計のキャリアを追求する大きな動機づけを持っていることを示唆している。Farmer and Rittenberg (1992) は、学生の達成欲求が、会計専門職への高い志向と正の相関があることを示唆している。Harrel and Stahl (1983) は、簿記・会計入門科目の成績への達成欲求が全体のGPAと正の相関があることを示している。

3. 調査デザイン

3.1 回答者の属性

本サーベイ調査は、私立大学経営学部¹に在籍し、2020年前期に「財務会計」、「会計学」、「上級簿記」を履修中であった学生を対象に行った。「財務会計」は3年次以上、「会計学」および「上級簿記」は2年次以上に²配当されている。図表1は、サンプル選択を示している。上記3科目を履修する学生の総数は258名であり、履修科目が重複する40人および78人の非回答または利用可能なデータがない学生を除外し、最終的なサーベイ参加者総数は218名、有効回答数は140名、回答率は64.22%となった。

サーベイ調査は、Microsoft Formsを通じてオンラインで実施した。図表2は、各科目の履修者数と有効回答数を示し、各科目の有効回答率は財務会計で66.67%、会計学で72.12%、上級簿記で39.58%となった。

図表1 回答者数および有効回数

3科目履修者数	258名
重複履修者数	△40名
非回答者・無効回答数	△78名
有効回答数および率	140名 (64.22%)

図表2 科目別履修者数および有効回数

	財務会計	会計学	上級簿記
履修者数	45名	165名	48名
回答者数	30名	119名	19名
有効回答率	66.67%	72.12%	39.58%

図表3は、3科目を履修する学生の属性を示している。対象となった大学の経営学部では2年次より専門ゼミに所属するが、会計系ゼミに所属している学生は回答者の中の26.71%となっており、回答者の大多数が会計学を専門的に学ぶ状況にないなかで会計関連科目を履修していることを示している。

図表3 回答者の属性

<u>学年</u>	<u>人数</u>	<u>%</u>
2年生	57	40.71%
3年生	46	32.86%
4年生	37	26.43%
合計	140	100.00%
<u>専攻</u>	<u>人数</u>	<u>%</u>
マネジメント専攻	46	32.86%
マーケティング・デザイン専攻	94	67.14%
合計	140	100.00%
<u>高等学校の種別</u>	<u>人数</u>	<u>%</u>
普通科	114	81.43%
商業科	16	11.43%
そのほか	10	7.14%
合計	140	100.00%
<u>入試種別</u>	<u>人数</u>	<u>%</u>
AO	27	19.29%
推薦入試	50	35.71%
センター	6	4.29%
一般	55	39.29%
留学生試験	2	1.43%
編入学		
合計	140	100.00%
<u>会計系ゼミへの所属</u>	<u>人数</u>	<u>%</u>
所属している	35	25.00%
所属していない	105	75.00%
合計	140	100.00%

図表4は、3科目別の回答者の1年次の「簿記原理」の成績(PIA)、1年次修了時のGPA、英語科目のクラス配置目的で実施された、1年次の英語プレイスメントテストの成績(CSE:1000点で英検3級程度)、学内の委員会活動などの課外活動の時間、およびアルバイト時間の基本統計量を示している。図表4から、上級簿記の履修者は、PIAとGPAの両方が高く、CSEの得点が低いこと、一方で財務会計の履修者は、PIAとGPAの両方が低く、CSEの得点が高いことがわかる。また、財務会計は、学修内容水準が会計学より高いため、通常であれば財務会計履修者のほうが会計学履修者の得点よりも高いと予想できるが、会計学履修者のGPAおよびPIAは、財務会計履修者のGPAおよびPIAよりも高くなっている。これは、図表5に示すように、会計学履修者に2年生が多く、かつ2年生のGPAが、4年生のGPAよりも高いことに起因しているといえる。

図表4 科目別の回答者の回答の基本統計量

<u>PIA</u>	<u>財務会計</u>	<u>会計学</u>	<u>上級簿記</u>	<u>合計</u>
平均値	1.100	1.588	2.211	1.564
最大値	4.000	4.000	4.000	4.000
最小値	0.000	0.000	0.000	0.000
中央値	1.000	1.000	2.000	1.000
標準偏差	1.165	1.293	1.321	1.288
<u>GPA</u>	<u>財務会計</u>	<u>会計学</u>	<u>上級簿記</u>	<u>合計</u>
平均値	1.775	1.913	2.245	1.917
最大値	3.290	3.630	3.630	3.630
最小値	0.980	0.560	1.130	0.560
中央値	1.735	1.890	2.190	1.890
標準偏差	0.566	0.652	0.810	0.654
<u>CSE</u>	<u>財務会計</u>	<u>会計学</u>	<u>上級簿記</u>	<u>合計</u>
平均値	800.444	790.600	777.105	790.248
最大値	957.000	982.000	925.000	982.000
最小値	584.000	629.000	584.000	584.000
中央値	792.000	781.500	773.000	782.000
標準偏差	86.263	75.333	73.312	77.034
<u>課外活動の時間</u>	<u>財務会計</u>	<u>会計学</u>	<u>上級簿記</u>	<u>合計</u>
平均値	0.733	0.605	0.316	0.607
最大値	4.000	4.000	2.000	4.000
最小値	0.000	0.000	0.000	0.000
中央値	0.000	0.000	0.000	0.000
標準偏差	1.062	0.998	0.653	1.005
<u>アルバイト時間</u>	<u>財務会計</u>	<u>会計学</u>	<u>上級簿記</u>	<u>合計</u>
平均値	12.300	12.067	9.421	11.836
最大値	16.000	16.000	16.000	16.000
最小値	0.000	0.000	0.000	0.000
中央値	15.000	15.000	10.000	15.000
標準偏差	5.539	5.036	6.124	5.207

(注) 回答結果および各指標の元数値の数値変換は次のとおりである。

PIA…AA = 4.0、A = 3.0、B = 2.0、C = 1.0、F以下 = 0.0

課外活動時間…週4日以上 = 4.0、週3日 = 3.0、週2日 = 2.0、週1日 = 1.0、行っていない = 0.0

アルバイト時間…週16時間以上 = 16.0、週15時間 = 15.0、週10時間 = 10.0、週5時間以下 = 5.0、行っていない = 0.0

図表5 学年別GPA

GPA	2年次生	3年次生	4年次生	合計
平均値	2.029	2.000	1.640	1.917
最大値	3.630	3.330	2.560	3.630
最小値	0.610	0.560	0.850	0.560
中央値	2.070	1.945	1.650	1.890
標準偏差	0.714	0.667	0.417	0.654

3.2 サーベイ調査のデザイン

当該質問票は、動機づけとしての会計に対する姿勢、達成欲求、会計を専攻する意図、努力因子としての家族や学修環境、適性因子としての会計教育歴の3つの部分から構成されている(付録参照)。以下では、動機づけとしての会計学修に対する姿勢、努力因子としての学修環境、適性因子としての高校での会計教育の3つの要因について説明する。

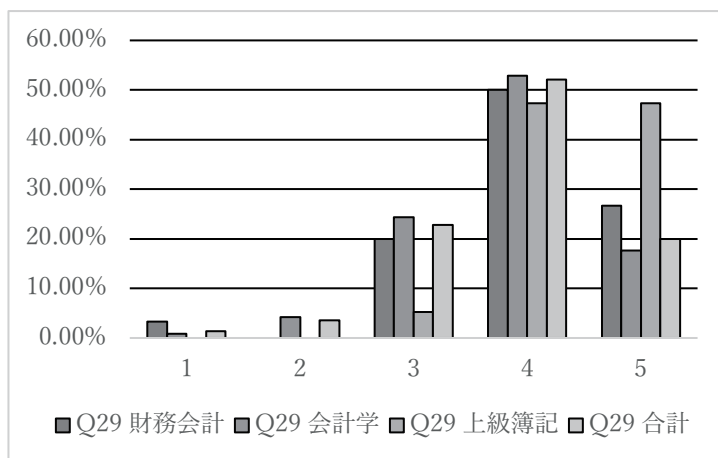
4. 動機づけとしての会計に対する姿勢

本研究では、学業成績に影響を与える要因のモデルを構築する。このモデルでは、動機づけ、努力、適性が会計入門科目における学業成績の決定要因であると予測する。Geiger (1990) は、会計学修に対する姿勢が会計科目における成績と正の関係にあることを示している。

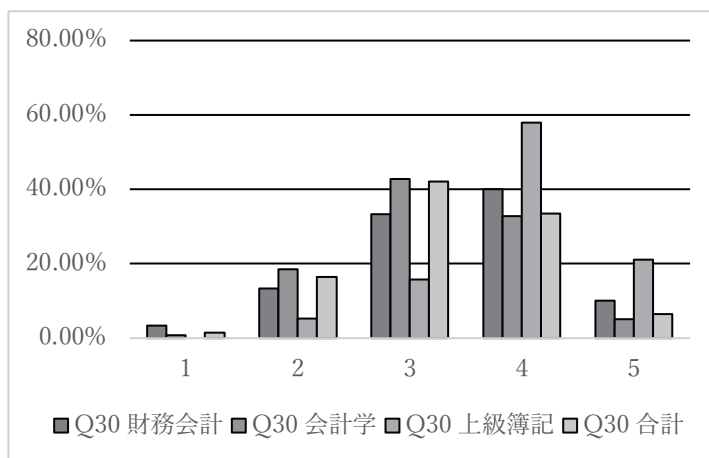
会計学修に対する姿勢については、以下の質問を設定した。問29「簿記・会計に興味がある」は、会計に興味があるかどうかを問い、問30「簿記・会計の学修を積極的に行っている」では、積極的に会計の勉強をしているかどうかを尋ねた。その結果は、それぞれ図表6と図表7に示す。会計への興味(問29)については、財務会計履修者の76.67%、会計学履修者の70.59%、上級簿記履修者の94.74%が4または5を選択している。

問33は、自分の興味から会計学関連科目を履修したかどうかを尋ねるものである。図表8に示す通り、財務会計履修者の56.67%、会計学履修者の62.18%、上級簿記履修者の89.47%が4または5を選択している。このことから、会計に興味を持っている学生は、より実務的で資格につながるような内容の会計科目を履修していることがわかる。また、会計学に対する積極的な姿勢について尋ねた質問31「簿記・会計の科目ではよい成績を修めたい」について、財務会計履修者の50.00%、会計学履修者の37.82%、上級簿記履修者の78.95%が4または5を選択している。Farmer and Rittenberg (1992) は、学生の成績への達成欲求が、より高い会計学修への志向と正の相関があることを示唆している。Harrel and Stahl (1984) は、達成欲求が全体のGPAと正の相関関係にあることを示している。このことから、3科目を履修している学生は、会計学に対する積極的な達成欲求を持っていることがわかる。

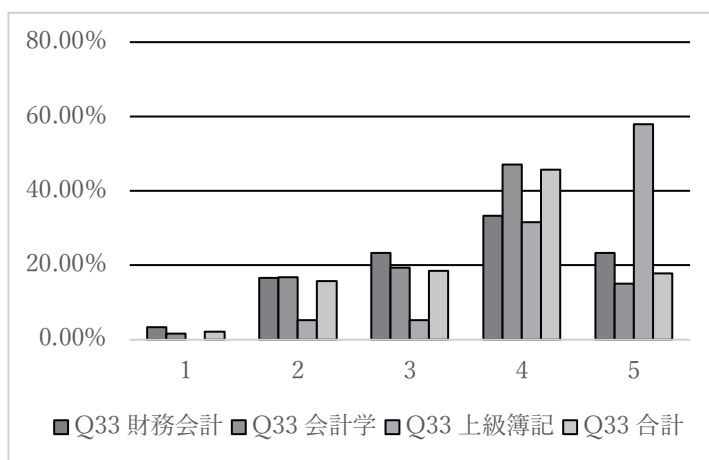
図表6 問29の結果



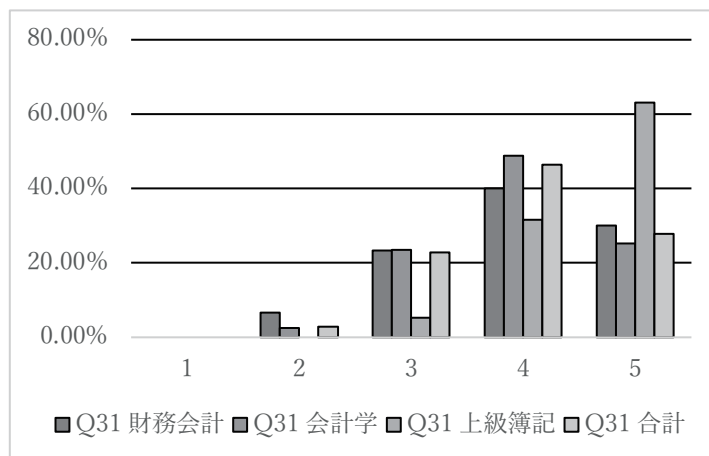
図表7 問30の結果



図表8 問33の結果



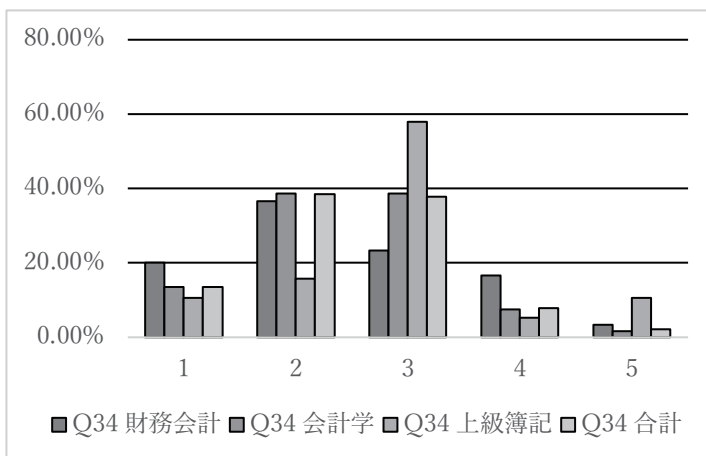
図表9 問31の結果



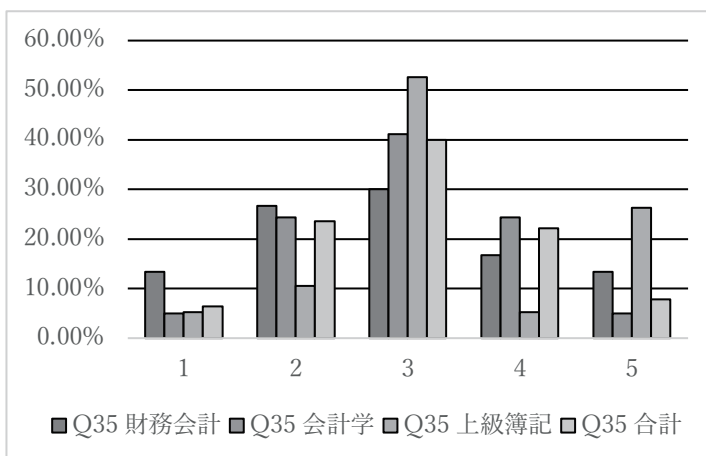
動機づけとしての会計学修に対する姿勢のうち、会計を専攻する意思については、4つの質問を行っている。問34は、将来、会計専門職（公認会計士や税理士）に就きたいかどうかを問う質問である。問35は、将来、一般企業などで経理の仕事をしたと思うかどうかを問う。問36は、私立の会計専門学校への進学を考えているかどうかを尋ねている。問37は、大学院に進学して会計学を専攻したいかどうかを尋ねている。

図表10、11、12、13は、それぞれ問34、35、36、37の結果を示している。問34に関しては、財務会計履修者の20.00%、会計学履修者の9.24%、上級簿記履修者の15.79%が4または5を選択している。問35に関しては、財務会計履修者の30.00%、会計学履修者の29.41%、上級簿記履修者の31.58%が4または5を選択している。問36に関して、4または5を選択したのは、財務会計履修者の6.67%、会計学履修者の6.72%、上級簿記履修者の5.26%である。問37に関しては、財務会計履修者の6.67%、会計学履修者の3.36%、上級簿記履修者の5.26%が4または5を選択している。このことから、3科目の履修者は、会計に対する積極的な姿勢や会計に対する達成要求を有している学生は多いものの、将来的に会計専門職に就くことを考えている学生は少ないと考えられる。この結果は、会計専門職の減少に関するデータと整合しており、なぜ日本では会計に関わる職業を志向する学生が少ないのか、真摯に考察する必要がある。

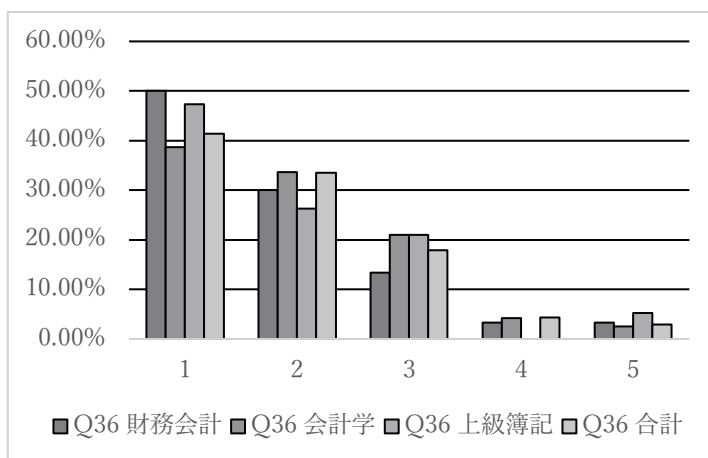
図表 10 問 34 の結果



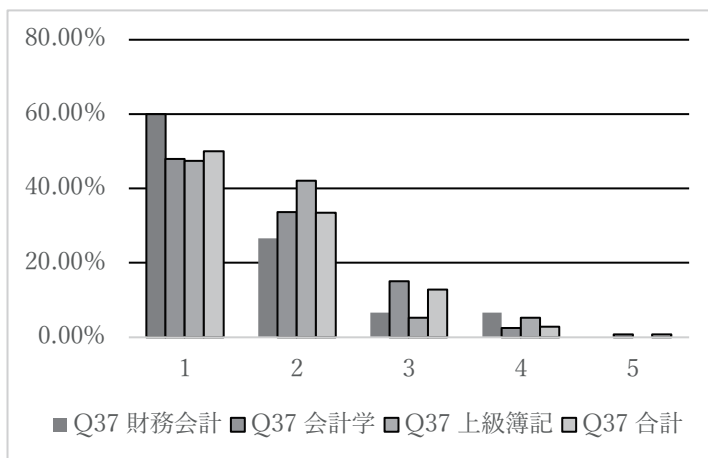
図表 11 問 35 の結果



図表 12 問 36 の結果



図表 13 問 37 の結果

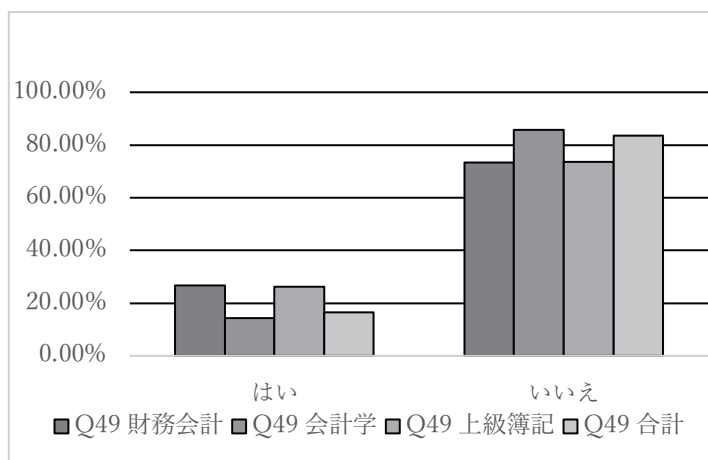


5. 努力因子としての学修環境および家庭環境

問49では履修者の家庭環境として身近に会計専門職に就いている方がいるかどうかを尋ねた。学修環境については、問57「大学内の委員会、部活、フィールドワークまたは大学外でのボランティア活動など課外活動を行っている」、問58「課外活動の活動は週どの程度ですか?」、問59「アルバイトをしている」、問60「アルバイトは週時間ですか」と尋ねた。結果はそれぞれ図表14, 15, 16, 17, 18に示している。

会計専門職の存在(質問49)については、財務会計履修者の73.33%、会計学履修者の85.71%、上級簿記履修者の73.68%がいないと答えた。家庭環境そのものを学生本人が変えることは非現実的であるため、大学や各種機関によって、会計専門家の話を聞く機会を増やし、学生に会計専門家を身近に感じてもらう必要がある。

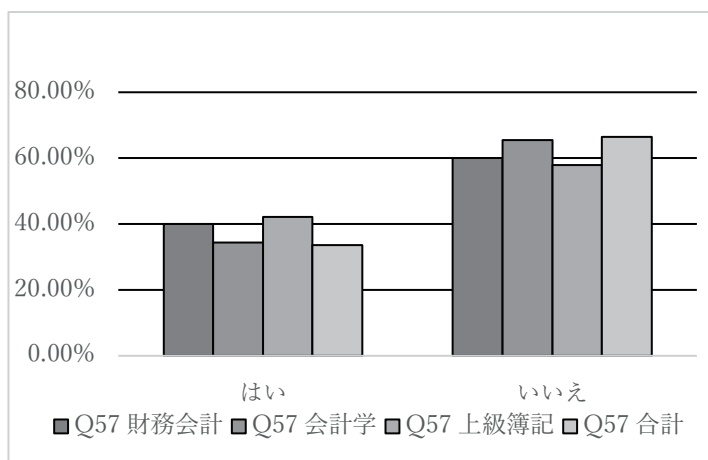
図表 14 問 49 の結果



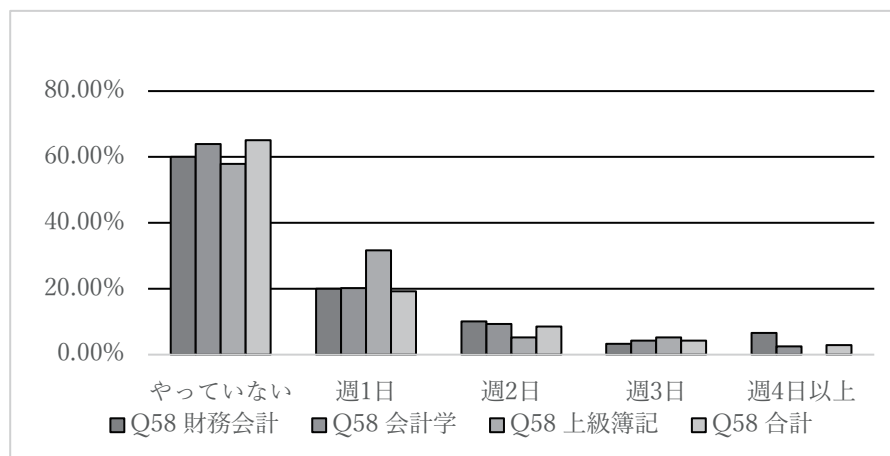
学校での課外活動（質問57）については、財務会計履修者の40.00%、会計学履修者の34.45%、上級簿記履修者の42.11%が学校での課外活動に参加していると回答している。このことから、3科目の学生の約4割が課外活動に参加していることがわかる。

アルバイトについては、財務会計履修者の90.00%、会計学履修者の93.28%、上級簿記履修者の78.95%が放課後にアルバイトをしている。そして、財務会計履修者の70.00%、会計学履修者の62.18%、上級簿記履修者の42.11%が週15時間以上のアルバイトをしている。学生たちが勉強に十分な時間を割けていないことが懸念される。

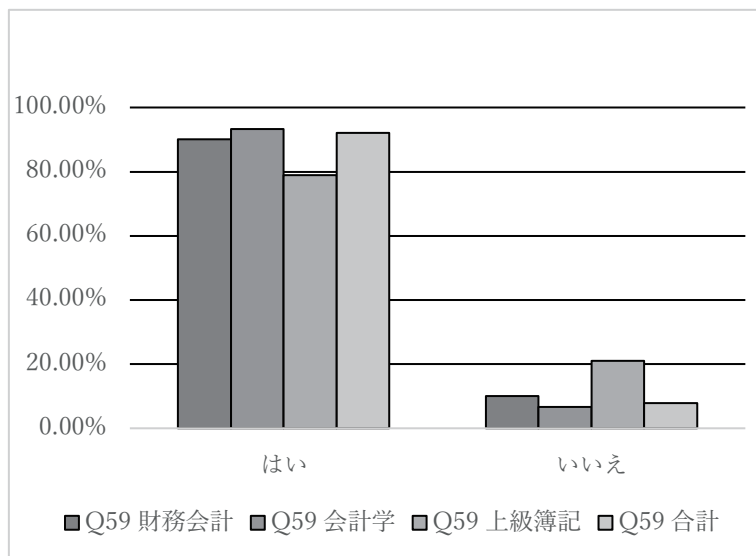
図表 15 問 57 の結果



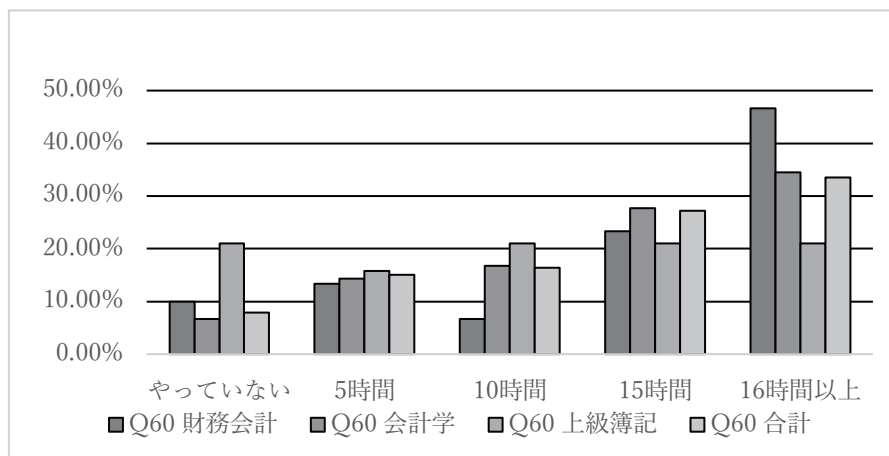
図表 16 問 58 の結果



図表 17 問 59 の結果



図表 18 問 60 の結果



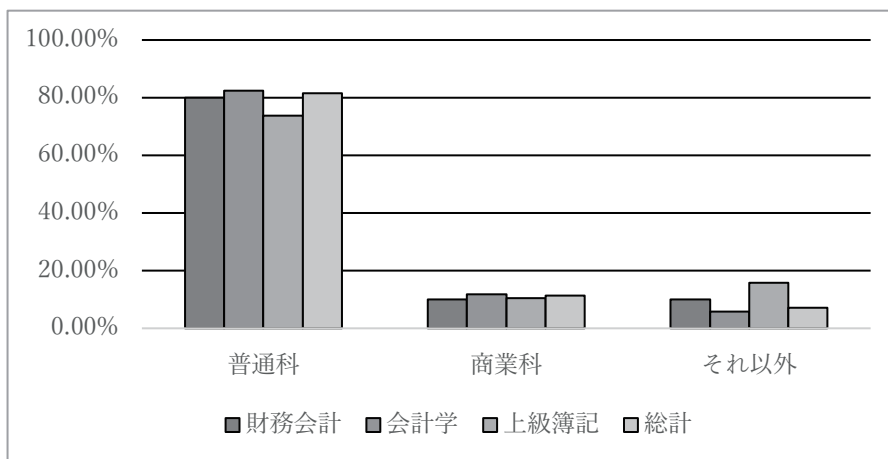
6. 適性因子としての入学前教育

簿記・会計系科目の入学前の教育について、質問44では、出身高等学校の種別を、質問45では、大学入試種別について尋ねている。図表19と図表20は、その結果をそれぞれ示している。高校の種類（質問44）については、財務会計履修者の80.00%、会計学履修者の82.35%、上級簿記履修者の73.68%が普通高校出身であり、高校における簿記・会計の学修経験がないことを示唆している。

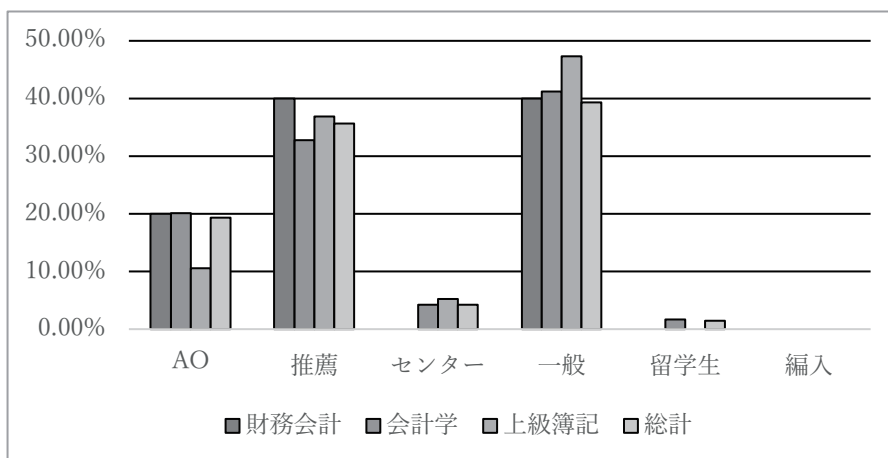
大学の入学形態（質問45）については、財務会計履修者の20.00%、会計学履修者の20.17%、

上級簿記履修者の10.53%がAO入試（当時）で入学している。財務会計履修者の40.00%、会計学履修者の32.77%、上級簿記履修者の36.84%が、推薦入試で入学している。財務会計履修者の0.00%、会計学履修者の4.2%、上級簿記履修者の5.26%が大学入試センター試験で入学している。会計系3科目を履修している学生の4割以上が一般入試を受験していることになる。入学試験に向けた学習によって入学後も学習姿勢が構築され、その姿勢が継続されていると推察される。

図表 19 問 44 の結果

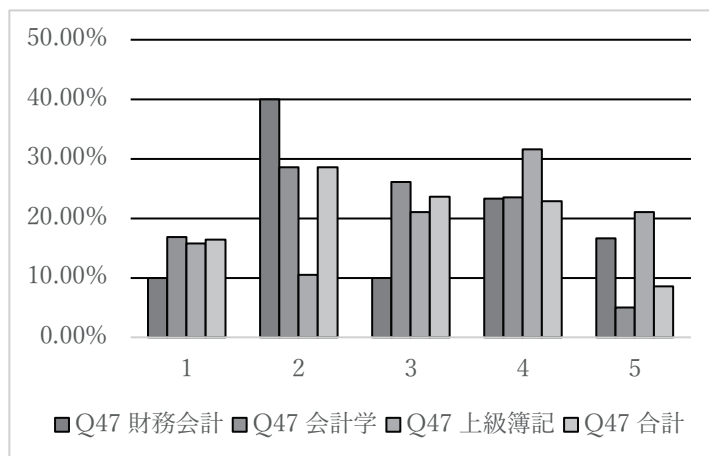


図表 20 問 45 の結果



入学前教育以外の適性の要因について、問47「大学に来る前に会計学を学びたいと思っていたか」を尋ねている（図表21）。この問いに関しては、財務会計履修者の40.00%、会計学履修者の28.57%、上級簿記履修者の52.63%が4または5を選択している。このことから、財務会計と上級簿記を履修する学生は、会計学修に対する動機づけが高いことがわかる。

図表21 問47の結果



7. 学業成績と動機づけ、努力、適性の相関

図表22は、各変数のピアソン相関係数、スピアマン相関係数を示している。GPAなどの適性変数は、PIAと有意かつ正の相関があることが明らかになった。また、会計に興味がある(Q29)、積極的に会計学を学びたい(Q30)、興味があつて会計学を履修している(Q31)などの会計に対する姿勢は、PIAと有意かつ正の相関があることがわかった。また、課外活動(Q57)は、PIAと有意かつ正の相関がある。一方、出身高等学校の種類(Q44)や入学形態(Q45)は、PIAとは有意な相関を示していない。また、職業としての会計専門職への関心(Q34)は、PIAと有意な正の相関を示していない。さらに、大学院への進学(Q37)は、3つの科目でPIAとの有意な正の相関は観察できない。Jones and Wright (2011)は、GPAの高い学生が会計学を専攻するという結果を出しているが、われわれの結果は先行研究の結果と整合していない。会計に対して肯定的な姿勢をとる学生は、簿記・会計入門科目で良い学業成績を得ることができると考えられる。しかしながら、会計に対して肯定的な姿勢で良い学業成績を得た学生は、必ずしも会計専門職を目指すわけでもなく、また、会計を専攻して大学院に進学するわけでもないのである。

Maksy (2014, 93)は、通学制の学校では、アルバイトの勤務時間と職種は学生の成績との負の関連が弱いことを示している。本調査でもアルバイトに従事している時間は、PIAと有意に負の相関を持っておらず、この点でMaksy (2014)の結果と一致している。これらを総合すると、学生は課外活動に参加するほど良い成績をおさめるものと考えられ、アルバイトの時間が必ずしも簿記・会計入門科目の学業成績を阻害するものではないと考えられる。

図表 22 各変数の相関係数

	PIA	GPA	CES	問29	問30	問31	問33	問34	問35	問36	問37	問44	問45	問47	問49	問57	問58	問59	問60
PIA	1	0.620**	-0.011	0.170*	0.229**	0.173*	0.166	0.156	0.103	0.033	-0.032	0.156	0.079	0.100	0.105	0.170*	0.044	-0.058	-0.097
GPA	0.000	1	0.898	0.045	0.006	0.041	0.050	0.065	0.225	0.695	0.710	0.065	0.353	0.238	0.217	0.045	0.603	0.499	0.255
CES	0.044	0.241**	1	0.018	-0.145	0.045	-0.066	-0.122	-0.023	-0.033	-0.020	-0.006	-0.038	-0.058	-0.244**	0.037	-0.076	0.042	0.058
問29	0.609	0.004	0.231	1	0.518**	0.559**	0.598**	0.350**	0.421**	0.118	-0.009	0.171*	0.015	0.406**	-0.040	-0.024	-0.016	0.046	-0.024
問30	0.093	0.603	0.827	0.000	1	0.403**	0.356**	0.438**	0.388**	0.168*	0.187*	0.121	0.035	0.337**	0.039	-0.031	-0.025	-0.093	-0.210*
問31	0.013	0.392	0.181	0.000	0.000	1	0.495**	0.176*	0.420**	0.026	-0.088	0.089	-0.011	0.238**	-0.069	-0.051	-0.049	0.065	-0.049
問33	0.057	0.091	0.497	0.000	0.000	0.000	1	0.297**	0.317**	0.157	0.059	0.158	0.003	0.263**	-0.040	0.017	-0.015	0.098	-0.023
問34	0.043	0.230	0.552	0.000	0.000	0.000	0.000	1	0.503**	0.475**	0.384**	0.014	0.073	0.295**	0.007	-0.081	-0.067	0.003	-0.143
問35	0.061	0.596	0.275	0.000	0.000	0.032	0.002	0.000	1	0.245**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**	-0.139	-0.085	-0.065	-0.048	-0.208*
問36	0.085	0.021	-0.037	0.404**	0.375**	0.434**	0.303**	0.477**	0.003	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**	-0.139	-0.085	-0.065	-0.048
問37	0.319	0.807	0.667	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.003	0.027	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**	-0.139	-0.085	-0.065
問44	0.012	0.013	-0.022	0.130	0.211*	0.005	0.093	0.512**	0.250**	0.000	0.003	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**	-0.139	-0.085
問45	0.886	0.878	0.794	0.127	0.012	0.953	0.274	0.000	0.003	0.000	0.607	0.547	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**	-0.139
問47	-0.004	0.010	0.033	0.027	0.227**	-0.077	-0.002	0.408**	0.211*	0.697**	1	-0.088	0.122	0.022	-0.006	-0.040	-0.076	-0.007	-0.100
問49	0.963	0.908	0.700	0.755	0.007	0.366	0.983	0.000	0.012	0.000	0.303	0.150	0.794	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011	0.456**
問57	0.162	-0.086	-0.258**	0.172*	0.128	0.083	0.172*	0.023	0.047	-0.023	-0.088	1	-0.289**	0.230**	0.023	-0.065	-0.105	0.021	-0.084
問58	0.056	0.313	0.002	0.042	0.133	0.330	0.042	0.784	0.583	0.784	0.304	0.001	0.006	0.792	1	0.695**	0.187*	0.061	-0.011
問59	0.092	0.142	0.335**	0.011	0.031	0.006	-0.018	0.058	-0.006	0.065	0.144	-0.289**	1	-0.304**	0.038	0.079	0.140	-0.037	-0.003
問60	0.279	0.095	0.000	0.897	0.713	0.940	0.836	0.494	0.943	0.445	0.090	0.001	0.000	0.655	0.356	0.099	0.665	0.975	0.975
問29	0.093	-0.085	-0.228**	0.433**	0.333**	0.250**	0.285**	0.282**	0.417**	0.155	0.025	0.237**	-0.311**	1	0.047	-0.099	-0.069	-0.030	-0.131
問30	0.275	0.318	0.007	0.000	0.000	0.003	0.001	0.001	0.000	0.068	0.766	0.005	0.000	0.585	0.245	0.417	0.727	0.122	0.122
問31	0.100	0.053	-0.173*	-0.016	0.027	-0.064	-0.031	0.025	-0.145	0.007	-0.013	0.023	0.038	0.061	1	0.093	0.116	-0.229**	-0.175*
問33	0.241	0.533	0.041	0.850	0.750	0.452	0.720	0.771	0.087	0.938	0.881	0.792	0.655	0.474	0.274	0.173	0.007	0.039	0.039
問34	0.168*	0.270**	0.011	-0.011	-0.028	-0.048	0.022	-0.063	-0.083	-0.136	-0.046	-0.065	0.079	-0.095	0.093	1	0.775**	-0.130	-0.068
問35	0.048	0.001	0.893	0.899	0.745	0.571	0.800	0.456	0.331	0.109	0.589	0.444	0.356	0.265	0.274	0.000	0.127	0.427	0.427
問36	0.071	0.220**	-0.014	-0.028	-0.033	-0.060	-0.007	-0.076	-0.072	-0.157	-0.057	-0.090	0.087	-0.113	0.091	0.911**	1	-0.141	-0.086
問37	0.401	0.009	0.868	0.746	0.699	0.485	0.933	0.372	0.400	0.064	0.503	0.293	0.307	0.184	0.287	0.000	0.098	0.312	0.312
問38	-0.054	-0.096	0.090	0.071	-0.094	0.054	0.085	-0.014	-0.042	0.008	-0.041	0.021	-0.037	-0.032	-0.229**	-0.130	-0.168*	1	0.664**
問39	0.529	0.261	0.292	0.404	0.269	0.529	0.318	0.867	0.620	0.925	0.631	0.801	0.665	0.707	0.007	0.127	0.048	0.000	0.000
問40	-0.102	-0.183*	0.046	-0.068	-0.216*	-0.101	-0.051	-0.212*	-0.238**	-0.101	-0.155	-0.062	0.017	-0.194*	-0.157	-0.077	-0.124	0.482**	1
問41	0.229	0.030	0.588	0.428	0.010	0.236	0.550	0.012	0.005	0.235	0.067	0.470	0.838	0.022	0.064	0.365	0.143	0.000	0.000

対角線上(下)の相関はピアソン(スピアマン)相関を示している。**は、1%水準で有意(両側)、*は、5%水準で有意(両側)を示している。

8. 結論

本研究では、財務会計、会計学、上級簿記の履修者を対象に、簿記・会計入門科目の成績の決定要因として、動機づけ、努力、適性の因子を比較した。まず、学生の属性や学生の学修環境を調査した。次に、簿記・会計入門科目の成績が動機づけ、努力、適性といった要因と相関しているかどうかを分析した。本分析の結果、第1に、財務会計、会計学、上級簿記の履修者は、会計に対して肯定的な姿勢を有しているものの、会計専門職を自分のキャリアとして考えていないことが明らかになった。第2に、簿記・会計入門科目の成績と大学全体の成績との間には有意な正の相関があり、簿記・会計入門科目の成績と英語プレイスメントテストの点数との間には有意な相関はないことが明らかとなった。第3に、簿記・会計入門科目の成績と課外活動の時間との間には有意な正の相関があるが、アルバイトの時間との間に相関はないことが明らかとなった。

今回の調査研究にはいくつかの限界がある。これらは、サーベイの回答に基づいてデータを分析した結果であり、回答は質問に対する回答者の解釈に影響を受けている可能性がある。したがって、今後は、回答に影響を与えた可能性のある特性をコントロールする実証分析研究が必要となる。このような実証研究によって、当該結果の頑強性が高まることであろう。

参考・引用文献

- AICPA.2020. *2019 Accounting Graduates Supply and Demand Report*, AICPA. <https://www.aicpa.org/content/dam/aicpa/interestareas/accountingeducation/newsandpublications/downloadabledocuments/2019-trends-report.pdf>
- American Accounting Association. 1986. Bedford special report: future accounting education: preparing for the expanding profession, *Issues in Accounting Education*, Spring86 (1-1) Bedford, N., Bartholomew, E.E., Bowsher, C.A., Brown, A.L., Davidson, S., Horngren, C. T., Knortz H.C., Piser, M. M., Shenkir, W.G., Simmons, J.K., Summers, E. L., Wheeler, J. T.
- Accounting Education Change Commission. 1990. Objectives of education for accountants: Position statement No. one. *Issues in Accounting Education* (5): 307-312.
- Accounting Education Change Commission. 1992. The first course in accounting: Position statement No. two. *Issues in Accounting Education* 7(2): 249-251.
- Barhamzaid, Z.A.A. and Alleyne, Factors affecting student performance in the first accounting course in diploma program under political conflict, *Journal of Education and Practice* 9 (24): 144-154.
- Bekoe, R.T., G.M.Y.Owusu, C.G. Ofori, A. Essel-Anderson, E.E.Welbeck, 2018. Attitudes towards accounting and intention to major in accounting: a logistic regression analysis", *Journal of Accounting in Emerging Economies* 8 (4):459-475, <https://doi.org/10.1108/JAEE-01-2018-0006> Permanent link to this document: <https://doi.org/10.1108/JAEE-01-2018-0006>
- Council of Europe. 2020. Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment (CEFR). <https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages>
- Dockweiler, R.C., and C.G. Willis. 1984. On the use of entry requirements for undergraduate accounting programs the *Accounting Review* 59 (3): 496-504.
- Doran, B.M., Bouillon, M.L. and Smith, C.G. 1991. Determinants of student performance in accounting principles I and II, *Issues in Accounting Education* 6 (1): 74-84.
- Eiken Foundation of Japan. 2020. CSE Score. <https://www.eiken.or.jp/eiken-iba/test-level.html>
- Eskew, R.K. and R.H. Faley. 1988. Some determinants of student performance in the first college-level financial accounting course, *The Accounting Review* 63 (1): 137-147.
- Farmer, T.A. and L.E. Ritterberg. 1992. A cross-sectional analysis of motivating needs and public accounting success,

- Journal of Applied Business Research* 8 (3): 12-19.
- Geiger, M. A. 1990. Teaching accounting concepts versus applications: An analysis of student attitudes. *University of Richmond UR Scholarship Repository* 69-82.
<https://scholarship.richmond.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1004&context=accounting-faculty-publications>
- Graham, J.R. C.R.Harvey, and S .Rajgoopal. 2005. The economic implications of corporate financial reporting. *Journal of Accounting and Economics* 40: 3-73.
- Harrell, A. and M. Stahl. 1984. McClelland's trichotomy of needs theory and the job satisfaction and work performance of CPA firm professionals, *Accounting Organizations and Society* 9 (3-4): 241-252.
- Jones, S. H. and Wright, M. 2011. Effect of cognitive style on performance in introductory financial accounting and the decision to major in accounting, *Global Perspectives on Accounting Education* 8: 7-26.
- Ibrahim, E.M.. 1989. *Effort-expectation and academic performance in managerial cost accounting*, *Journal of Accounting Education* 7(1): 57-68.
- International Accounting (IFAC). 2010.Exposure Draft, International Federation of Accountants, IFAC Policy Position Paper #4 *A Public Interest Framework for the Accountancy Profession*.
- Kalbers, L.P. and G. P. Weinstein. 1999. Student performance in introductory accounting: A multi-sample, multi-mod analysis *Accounting Educators' Journal* 11: 1-28.
- Kukreja, G.K. and Aali, M.H.A. 2013. The Determinants of students' performance in introductory accounting courses: Evidence from Kingdom of Bahrain, *Journal of Emerging Issues in Economics, Finance and Banking (JEIEFB) An Online International Monthly Journal* 1 (3): 183-201.
- Harrell, A.M. and M. J. Stahl. 1983. Need for achievement, need for affiliation and the academic performance and career intentions of accounting students, *Journal of Accounting Education* 1 (2): 149-153.
- PricewaterhouseCoopers. 2017. *Analysis for Japan, Economic Crime in Japan: Gap between Japan and the World*.(in Japanese). <http://www.pwc.com/jp/ja/japan-knowledge/archive/assets/pdf/economic-crime1707.pdf>
- Maksy, M.M. 2014. Factors associated with student performance in intermediate accounting: A comparative study at commuter and residential schools, *Journal of Applied Business and Economics* 16 (5): 86-108.
- Mynavi. 2020. The trend of the number of people who passed the Japanese CPA exams.
https://cpa.mynavi.jp/column_mt/2020/01/635.html
- Solomon, L. 1975. Improving student attitude in the beginning accounting course. *The Accounting Review* 50 (3) : 601-605.
- 須田一幸・花枝英樹. 2008. 「日本企業の財務報告—サーベイ調査による分析—」『証券アナリストジャーナル』46 (5) : 51-69.
- Wicker, F.W. G. Brown, A.S. Hagen. W. Boring, J. A. Wiehe. 2014. Student Expectations About Affective Correlates of Academic Goal Setting, *The Journal of Experimental Education* 59 (3): 235-247.
- Wooten. T.C.1998. Factors influencing student learnings in introductory accounting classes: A comparison of traditional and nontraditional students, *Issues in Accounting Education* 13 (2): 357-373.

【付録】 サーベイ調査のカバーレターおよび設問²

本サーベイは、以下の6つのセクションから構成されています。各セクションは約5分で回答可能となっております。

1. 簿記・会計に対する修学姿勢 (質問1 - 28)
2. 簿記・会計に対する意思 (質問29 - 40)
3. あなた自身のこと (質問41 - 50)
4. 大学における簿記・会計科目の履修状況 (質問51 - 52)
5. 簿記・会計の検定 (質問53 - 56)
6. あなた自身の生活環境 (質問57 - 60)

学業ご多忙のなか誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、次の要領にて、ご協力下さいますようお願い申し上げます。なお、本調査で得られました情報は、学術研究のためにのみ使用いたします。また、われわれが担当する授業の成績には一切関係ありませんので、遠慮なく回答してください。ご了解いただいた場合以外、学生の個人情報等が公表されることはございませんので、重ねてご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

[ご回答にあたって]

1. ご回答にあたっては、あなたのお考えに即してお答え下されば幸いです。
2. 「程度」に関する質問は、リッカート・スケールを用いております。そこでは、1点、2点、3点、4点、5点について簡単な説明を付しておりますが、おおよそのところに○印をつけてお答え下さい。
3. おひとり一回の回答となります。

- 問1 簿記・会計の知識は自分の将来に役立つ。
- 問2 棚卸資産など個別の会計処理方法に係る会計基準についてすべて学修したい。
- 問3 時間と機会があれば簿記の授業をもう一度受けたい。
- 問4 簿記・会計はつまらない。
- 問5 簿記・会計の理論的な説明を聞いていると眠くなる。
- 問6 簿記・会計の計算問題の解き方を覚えるのは難しい。
- 問7 簿記・会計の計算構造についての学修が面白い。
- 問8 簿記・会計はとても理論的だと思う。
- 問9 簿記・会計の新しい問題でも、比較的容易に解くことができると思う。
- 問10 簿記・会計の問題を解くときはミスが多い。
- 問11 簿記・会計に関する実務問題の議論が面白い。
- 問12 簿記の計算問題は複雑で眠くなる。
- 問13 簿記・会計の基礎概念を勉強することが大切だと思う。
- 問14 簿記・会計の問題を解くのは楽しい。
- 問15 学ぶべき簿記・会計の理論が多く混乱する。
- 問16 簿記・会計に関する理論についての学修は退屈である。
- 問17 簿記・会計に関する理論についての学修は興味深く刺激的だ。
- 問18 簿記・会計の基礎概念を十分理解していないと会計専門職にはなれない。
- 問19 簿記・会計専門のコースがあってもよいと思う。
- 問20 簿記・会計の理論は複雑性を備えており、知的好奇心を刺激される。
- 問21 二度と簿記・会計の授業は受けたくない。
- 問22 簿記・会計の問題はテクニックよりも理論的側面から解いている。
- 問23 簿記・会計の基礎概念を理解することは優秀な会計専門職には必須である。

² 当該質問票は、Geiger (1990) に依拠して筆者が作成したものである。

- 問24 簿記・会計についての議論は楽しい。
- 問25 簿記・会計の知識は将来使うかもしれないが、苦手意識がある。
- 問26 簿記・会計の難しい問題に挑戦するのは好きだ。
- 問27 会計に関して卒業論文を書くことは、とても興味深いことと思っている。
- 問28 簿記・会計の理論問題は得意だ。
- 問29 簿記・会計に興味がある。
- 問30 簿記・会計の学修を積極的に行っている。
- 問31 簿記・会計の科目ではよい成績を修めたい。
- 問32 簿記の授業は選択必修なので履修した。
- 問33 簿記の授業は自分の興味から履修した。
- 問34 将来、会計専門職（会計士・税理士）を希望している。
- 問35 将来、一般企業あるいはその他組織において経理関係の仕事に就きたい。
- 問36 簿記・会計の専門学校への通学を考えている。
- 問37 大学院（簿記会計を専攻とする）へ進学したい。
- 問38 簿記の勉強に教員との相性は関係あると思う。
- 問39 簿記の勉強に教科書との相性は関係あると思う。
- 問40 その他簿記教育についてご意見がありましたらご記入ください（任意）。
- 問41 性別をお答えください。
- 問42 学年
- 問43 専攻
- 問44 出身高等学校の種別
- 問45 入試種別
- 問46 当大学の入試時の志望度合い
- 問47 大学に入る前から簿記・会計を勉強したかった。
- 問48 簿記の知識を全く持たずに大学ではじめて簿記を勉強した
- 問49 身近に会計専門職に就いている方がいますか？
- 問50 その方との続柄をお答えください。
- 問51 簿記・会計のゼミに所属している
- 問52 現在履修（検討）中・過去に履修した科目すべてを選択して下さい。その他には、下記科目のうちF以下となった科目を記載してください。
- 問53 簿記関連の検定資格を持っていますか？
- 問54 今後簿記関連の検定を受ける予定はありますか？
- 問55 現在取得している日商簿記検定についてお答えください。
- 問56 これまで取得した日商簿記検定以外の簿記関連検定はありますか？
- 問57 大学内の委員会、部活、フィールドワークまたは大学外でのボランティア活動など課外活動を行っている
- 問58 課外活動の活動は週どの程度ですか？
- 問59 アルバイトをしている。
- 問60 アルバイトは週時間ですか